（２０）ばら

ア　各病害虫の防除

うどんこ病

黒星病

さび病

すそ枯病

灰色かび病

腐らん病、枝枯病

べと病

根頭がんしゅ病

アブラムシ類

ミカンキイロアザミウマ

カイガラムシ類(主としてバラシロカイガラムシ)

ハダニ類

オオタバコガ

ハスモンヨトウ

ネコブセンチュウ

ア　各病害虫の防除

【留意事項】
（□は総合防除計画に掲載している病害虫）

うどんこ病

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　微生物殺菌剤は予防的に散布する。
2　くん煙剤の使用については、共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方法の項を参照する。
3　薬剤を施用（散布）する。

黒星病

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　発病ごく初期から薬剤を施用（散布）する。最盛期には散布間隔をつめる。

さび病

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　発病初期から薬剤を施用（散布）する。

すそ枯病

（耕種的・物理的防除）
1　発病株は抜き取り、周りの土は更新する。
2　接木部は地表に出すようにする。

灰色かび病

（耕種的・物理的防除）
1　施設内の湿度を下げるよう換気、保温に努める。

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　薬剤を施用（散布）する。

腐らん病、枝枯病

（耕種的・物理的防除）
1　発病枝は直ちに切り取る。
2　寒害を受けないよう保護する。
3　接木のときは、健全穂を用いる。

べと病

（耕種的・物理的防除）
1　施設内の湿度を下げるよう換気、保温に努める。
2　落葉は、集めて処分する。発病茎は切除する。

（薬剤防除）　農薬登録情報
1　薬剤を施用（散布）する。

根頭がんしゅ病

（耕種的・物理的防除）
1　無病苗を無病地に植付ける。
2　排水を良くする。

（薬剤防除）　農薬登録情報

1　発病の見られたほ場に改めて植え直す場合は、薬剤で土壌消毒する(共通防除の章の資材・苗床・本ぽの消毒の項を参照)。

アブラムシ類

（耕種的・物理的防除）
1　育苗時からアブラムシ類の発生に注意する。黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、若しくは苗の近くにつるし、有翅成虫が飛来していないか確認する。
2　近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。
3　施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。
4　マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　気門封鎖剤を散布する。
2　くん煙剤の使用については、共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方法の項を参照する。
3　発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

ミカンキイロアザミウマ

・共通防除の章のアザミウマ類の防除の項を参照する。

（耕種的・物理的防除）
1　施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネットを展張する。育苗期の被覆も有効である。ほぼ完全に侵入を阻止するには、目合い0.4mm以下の防虫ネットが必要である。
2　ほ場周辺の雑草を除去する。
3　粘着テープにより成虫を誘殺する。本種は特に青色に誘引される。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　生物農薬は予防的に散布する。
※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。
※ミカンキイロアザミウマの生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
2　キルパーを用いた病害虫まん延防止（共通防除の章の資材・苗床・本ぽの消毒の項の「キルパーを用いた前作の古株枯死、病害虫まん延防止」を参照）（**農薬登録情報**）
3　発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

カイガラムシ類(主としてバラシロカイガラムシ)

・共通防除の章のカイガラムシ・ロウムシ類の防除の項を参照する。

（耕種的防除）
1　カイガラムシの寄生した枝は除去するか、虫をブラシ等でかき落とす。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　カイガラムシ類の薬剤散布適期は、卵からふ化し体全体がロウ物質で覆われるまでの期間（幼虫発生期）と越冬期である。幼虫発生期である薬剤散布は、幼虫が発生して２～３週間目が適期であるが、ロウムシ類では、卵が全部ふ化し終わってから散布してもよい。実際には、幼虫が見られてから被覆物で覆われるまでの間に１～２週間間隔で２回程度薬剤散布するのがよい。
2　発生が認められたら、薬剤を施用（散布）する。

ハダニ類

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　気門封鎖剤を散布する。
2　くん煙剤の使用については、共通防除の章の温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用方法の項を参照する。
3　発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。
※殺ダニ剤は品種により薬害が出やすいので、害がないことを確かめてから使用する。また、高温時期に薬害が出やすい。

オオタバコガ

・共通防除の章のオオタバコガの防除の項を参照する。

（耕種的・物理的防除）
1　食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
2　新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多い。摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。
3　防虫網などにより施設内への成虫の飛び込みを防止する。
4　本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。
5　蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたり、ほ場を冠水することで、土中の蛹を死滅させる。
6　交信かく乱剤を活用した防除を行う。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
2　交信かく乱剤を活用する。
3　BT 剤を散布する。
4　農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

ハスモンヨトウ

・共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項を参照する。

（耕種的・物理的防除）
1　早期発見に努め、卵塊や分散前の若齢幼虫を捕殺する。
2　施設などでは開口部に防虫網を設置し、成虫の侵入を防止する。
3　交信かく乱剤を活用した防除を行う。
4　施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
5　作物残さを適切に処分する。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
2　交信かく乱剤を活用する。
3　農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

ネコブセンチュウ

・共通防除の章の資材・苗床・本ぽの消毒の項を参照する。

（耕種的・物理的防除）
1　無寄生苗を選ぶ。

（薬剤防除）　**農薬登録情報**
1　薬剤を施用（散布）する。